

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導I (2 単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	押部 直也		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育実習I (保育所) の意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。		
8. 学習目標	「保育実習指導I (保育所) 」が終了した時点で、下記目標の達成が期待される。 1. 児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を明確にする。 2. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 3. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につける。 4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。 6. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント (宿題) 1. 実習にあたっての心構えに関する課題 2. 事務手続き等、実習に必要な書類に関する課題 3. 実習記録の作成に関する課題 4. その他 (授業内のワークシート、リフレクションシート、実習に向けての教材等の実践準備)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』名須川知子監修 萌文書林、2023 年 『自分をいかす保育実習ハンドブック』関口はつ江(編著) 大学図書出版、2022 年 【教材】 東京福祉大学「保育実習の手引き」		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1.実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができるか。 2.指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身に付けることができるか。 ○評定の方法 個別の授業態度、グループ活動への取り組み、レポート等を総合して評価する。 1.授業態度 50% 2.各提出物 50%		
12. 受講生へのメッセージ	保育実習に向けて、実習の意義、目的、内容、方法及び乳幼児理解について学ぶ。実習課題を明確にし、実習記録の意義、保育所や施設の役割を理解できるようにする。 保育実習は、子どもたちが生活する場に行き、子ども、保護者、保育者、保育施設につながる様々な方とかわり、保育実践に参加するという大変重要な学びの機会である。大学での学びを保育現場でどのように生かすか、現在の自分の課題を見出し、実習開始までに自身の不安を解消できるよう、準備する。 実習生としての心得、態度、必要な知識及び技術を身に付け、保育現場に立つ自分をイメージしながら準備を進めてほしい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	保育実習の目標と内容 実習の流れ及び実習施設との連絡、必要書類等について	事前学習	『実習の手引き』の「保育実習の内容」pp.1-5を読む。
		事後学習	個人調査書、自己紹介書等の下書きと清書
第 2 回	実習課題を明らかにする	事前学習	なぜ保育士資格を取得したいのか、動機を明確にするとともに、実習をとおして何を学びたいかを明らかにする。
		事後学習	課題を明確にし、学習計画を立てる。
第 3 回	実習先について知る	事前学習	保育所・施設の特徴や方針、地域性について調べる。
		事後学習	保育所概要について記入する。
第 4 回	実習に向けての心構えと準備	事前学習	「保育実習の手引き」を読み、実習先と実習生の心構えについて理解する。
		事後学習	オリエンテーションまでの流れと留意事項、持ち物 (提出書類等) について確認し、書き出す。
第 5 回	実習で出会う子どもたち・保育場面を知る —DVDを視聴し、記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読み、発達の流れを理解する
		事後学習	保育施設における一日の生活流れを理解し、保育場面や気付きを書き出してみる。
第 6 回	実習記録から保育を見る着眼点を学ぶ	事前学習	配布資料を読む。

		事後学習	資料の着眼点を意識し、時系列の記録を書く
第7回	環境構成図を描く	事前学習	配布資料の環境構成図を真似て描く。
		事後学習	実習記録のどのような場面に環境構成図を入れるか意識し、記録を真似て書く。
第8回	エピソード記録を書く —DVDを視聴し、記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	日常生活で見かけた子どもの一場面を切り取り、記録してみる。
第9回	一日のまとめと振り返りを書く 記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	配布資料を読んで、記録を書く上でのポイントを理解する。
第10回	指導計画の作成とアレンジの考え方	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	部分実習では、対象となる子どもの発達段階や生活経験、興味、関心を考え、子どもが喜ぶ内容を考えてくる。
第11回	指導計画の作成	事前学習	取り組みたい部分実習について準備する。
		事後学習	作成した部分実習の指導案について、どんなアレンジが可能か、対象年齢を変えて考えてみる。
第12回	教材を使った自己紹介と部分実習 グループごとに発表する 自己紹介と部分実習の模擬保育をする	事前学習	どんな自己紹介、部分実習をしたいかを考え、発表の準備をする。
		事後学習	他者の発表内容を参考に、自分自身の課題を明確にし、改善に取り組む。自分の得意分野を自覚し、自己紹介や部分実習につかえるものを準備する。
第13回	グループごとに発表する 自己紹介と部分実習の模擬保育をする	事前学習	自己紹介、模擬保育の発表準備をする。
		事後学習	他者の発表内容を参考に、自分の改善点に取り組む。
第14回	—先輩の実習体験から学ぶ—	事前学習	実習に対する不安や質問事項について書き出してくる。
		事後学習	先輩の体験談を参考に、自分自身が考える課題に対する対処方法や、準備についてまとめる。
第15回	授業のまとめ 実習施設へのお礼状	事前学習	事務手続き、持ち物、実習記録、教材準備等、必要なもの、他に確認しておきたいことがないか、これまでの学びを振り返る。
		事後学習	実習をとおして経験したいこと、学びを深めたいこと、身に付けたい専門性について、レポートにまとめる。